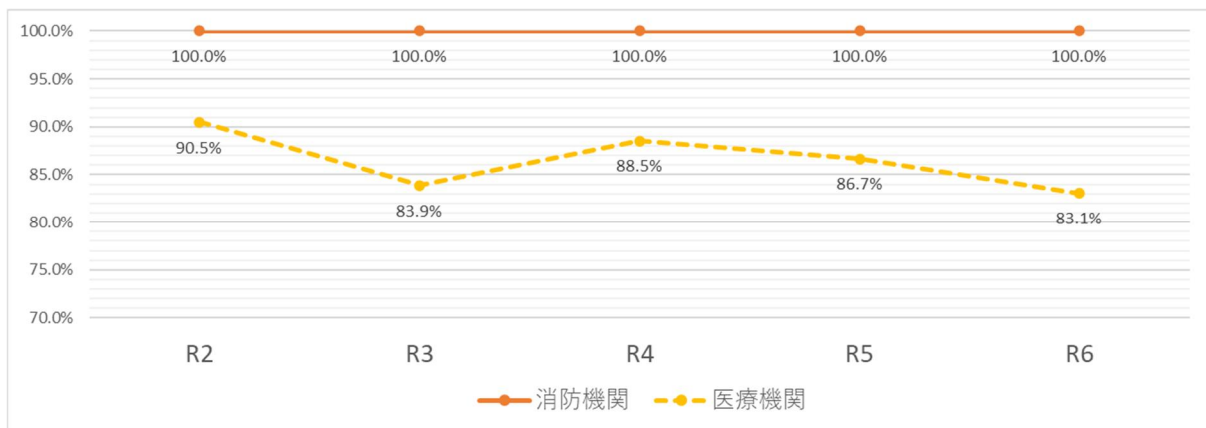


実施基準の運用状況

1 実施基準の周知

- (1) 消防機関：実施基準が全救急隊で周知されている。
- (2) 医療機関：実施基準が周知された割合が低下した。

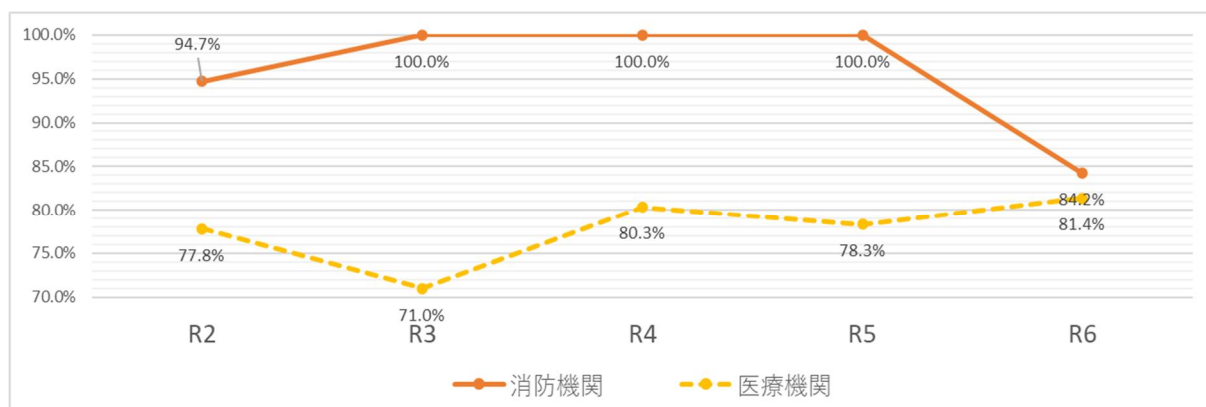


※ グラフ中の数値は、次の回答を行った機関の割合

- ・ 消防機関：「全救急隊で周知されている」＋「ほとんどの救急隊で周知されている。」
- ・ 医療機関：「医療機関内で周知されている」＋「救急部門では周知されており、運用上、問題がない」

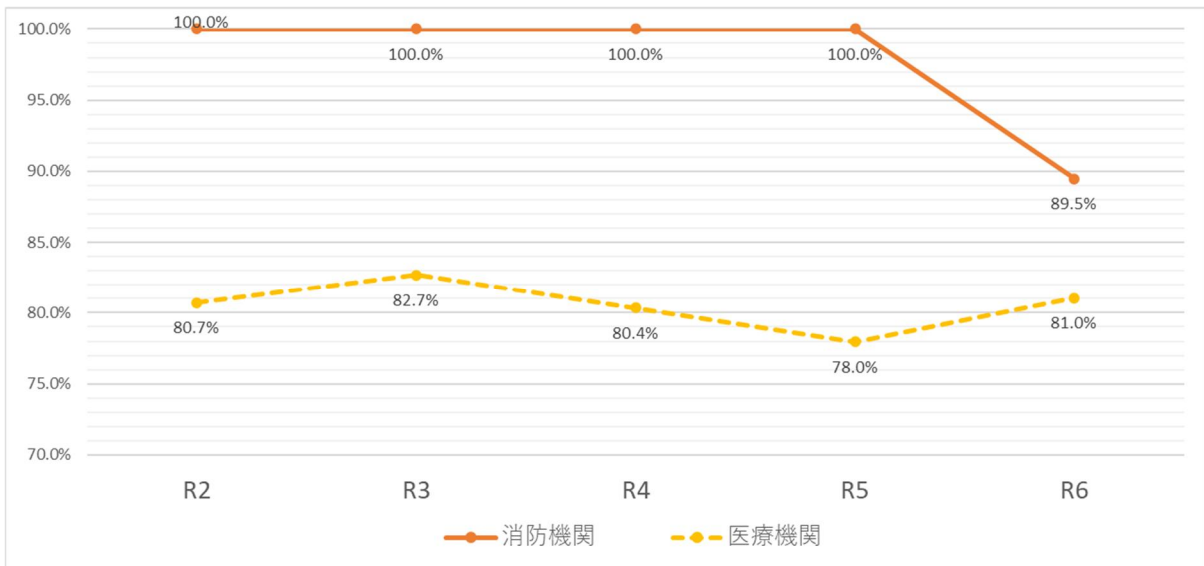
2 実施基準の伝達

- (1) 実施基準該当（受入照会の際、基準該当であることを伝え(られ)ているか）
医療側の伝達状況は改善したが消防側は落ち込んだ。



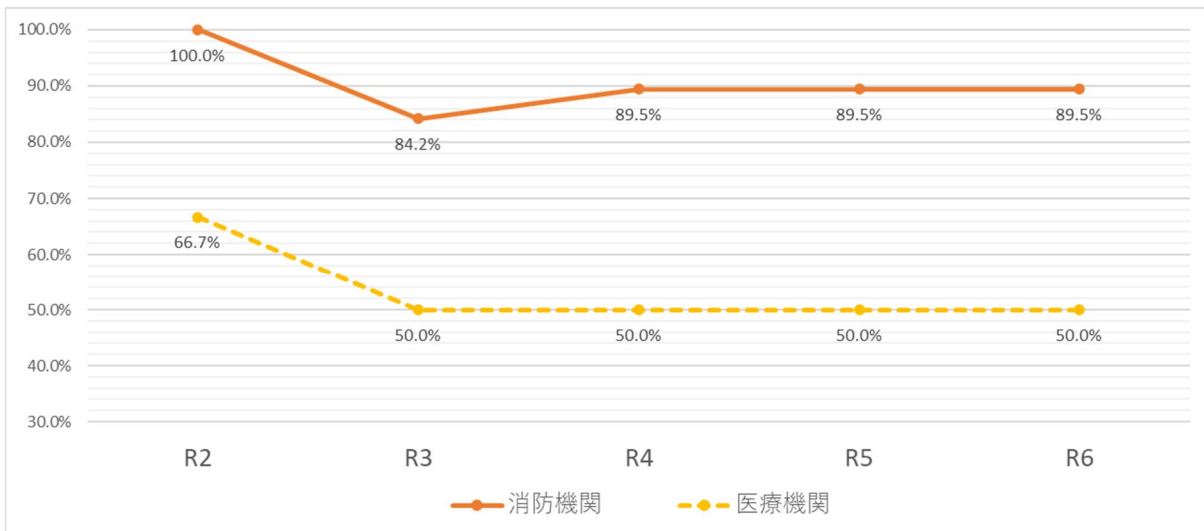
(2) 分類基準該当（分類基準のどれに該当するか伝え(られ)ているか）

医療側の伝達状況は改善したが消防側は落ち込んだ。



(3) 確保基準該当（受入照会の際、基準該当であることを伝え(られ)ているか）

医療側と消防側のギャップは昨年と同水準。



※ グラフ中の数値は、次の回答を行った機関の割合

- 消防機関：「伝達している」＋「概ね伝達している」
- 医療機関：「伝達されている」＋「概ね伝達されている」

(4) 実施基準該当の搬送事案であることを医療機関に認識してもらう上で、現状の伝達内容で支障があると回答した消防機関の意見

- ・意見無し

(5) 実施基準該当の搬送事案であることを認識する上で、現状の伝達内容で支障があると回答した医療機関の意見

意見
主訴、重症度を明確にしていきたい。優先度の低い情報（かかりつけ等）は後回しに。例年同じ内容の回答をしています。なかなか改まりません。プレゼンのトレーニングが必要と感じます。
受入可否に関するような情報が伝達されず、到着後に本人より情報として伝わるがあった（例：同症状で退院に救急搬送されていた、当院かかりつけとの情報であったが他院かかりつけであった、生年月日が違う）。適切な伝達を望む。
既往歴、手術歴、服薬状況について聴取可能な範囲ですが、詳しく知りたい場合があります。
受け手が周知していないので伝達しても伝わらないと思います。
整形外科以外の症状、既往歴
救急隊によって差があると感じることがある

(6) 実施基準の伝達に関して、消防機関における救急隊の「伝える技術（情報伝達技術）」の向上のための主な取組

取組
救急ワークステーションにおいて救命士の再教育の一環として、情報伝達技術向上のカリキュラムを取り入れている。
本年度、救急隊員に対し、病院連絡・情報伝達研修を実施し、伝達スキルの向上を図った。
医療機関への伝達方法について署内で研修を行っている。
勤務内での救急想定訓練に病院連絡を組み込み、伝える技術の質向上を図っている。
署内で収容依頼時の情報伝達訓練やシミュレーション訓練を実施し、情報伝達技術の向上に取り組んでいる。
5年未満の救急救命士及び消防副士長以下の救急救命士を対象とした、医療機関電話連絡研修を実施。資料を基に研修し、病院連絡の技術向上に取り組んでいる。
病院連絡の訓練、想定訓練中での病院連絡の練習。 新たに救急隊長の職に就く者に対し、隊長研修を行っている。その中に、病院への連絡要領等が含まれる。
定期的に研修を実施しスキルアップに取り組んでいる。
署内年間訓練計画に情報伝達技術研修を組み込み、スキルアップに取り組んでいる。
隊長研修などで収容依頼時の伝え方について訓練を実施している。
訓練時に伝達基準に則って、情報収集から情報伝達までの流れで実施しフィードバックをしている。
署内救急（技術）研修会等において「情報伝達訓練」の定期開催、および症例検討を行う上で、その情報伝達についてなど、その都度指導救命士のもとで検討、検証を行っています。
指導救命士を含む定期的な訓練の中で行っている。（簡潔明瞭に伝達できるように）
生涯教育訓練の項目に取り入れている。
救急隊員再教育や救急ステーションでの研修を行っている。
救急隊員生涯教育の一環として「情報伝達」訓練を実施している